

保健体育（中）部会研究計画

I. 研究主題

生きる力を育てる創造的な保健体育学習のあり方

～生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるために～

II. 研究目的

1. 研究経過

石教研の基本目標である「主体的・創造的で人間性豊かな子どもを育てる教育の確立」を受け、昭和45年から2ヵ年を単位として研究を推進してきた。

途中省略 第14次より小中分離

- ・第22次 「わかる楽しさ、できる楽しさ、学び合う喜びを実感できる指導内容の工夫」
「身につけさせたいことを明確にした授業づくり」
「運動量の確保と技能習得・活用の授業展開の工夫」
- ・第23次 「わかる楽しさ、できる楽しさ、学び合う喜びを実感できる課題解決的学習の工夫」
「身につけさせたいことを明確にした授業づくり」
- ・第24次 「わかる楽しさ、できる楽しさ、学び合う喜びを実感できる課題解決的学習の工夫」
「教育機器を活用した指導方法の工夫」
- ・第25次 「対話的・主体的な深い学びが達成できる課題解決学習の工夫」
「教育機器を活用した指導方法の工夫」

2. 主題設定の理由

石教研の基本目標にあるように主体的・創造的で人間性豊かな子どもを育てるには、生きる主体として自らをとらえ、自己の個性を創り出し、豊かな社会の形成者となる資質を身につけさせる必要がある。部会では、『生きる力を育てる創造的な保健体育学習のあり方』を主題に研究を進めてきた。

第21次研究においては、「武道」「ダンス」「ソフトボール」の授業研究を中心に行い、グループを使った交流活動のあり方や運動量の確保と言語活動のバランスについて、自己評価や相互評価の取り組みなどの実践により多くの成果を得た。

第22次研究においては、「剣道」「体育理論」の授業における課題や改善点を研究内容として深めるとともに、子どもたちの実態に応じて身につけさせたいことをより明確にして、運動の楽しさや喜びを味わわせながら、指導の充実を図っていくことができたと考える。

第23次研究では、球技を研究領域とした課題解決型の授業を実践し、グループ活動の取り入れ方や練習方法の工夫によって、生徒の創造的な学習活動へと結びつけることができた。

第24次研究では、器械運動における課題解決型の授業の中で、映像教材等を含む教育機器を活用した授業を展開する事が、生徒が「わかる・できる」楽しさを感じたり、互いに教え学びあったりする学習活動へと発展させていくことができた。

第25次研究では、新学習指導要領を見据え保健や体育の学習を通して、発見した「課題の合理的解決に向けた考え方を身につける」とともに、「他者に伝える力を養う」ことが目標となる。

新学習指導要領の教科目標に示された「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」を副主題に設定し、研究を充実・発展させていくことが研究主題や部会目標の達成につながると考え、主題を設定した。

3. 仮説

仮説 互いに教え学びあい、基礎基本を習得することで積極的に運動に取り組む態度を育成する事ができるだろう。

III. 研究内容

第25次研究（平成30年・31年の2年継続）の1年目とし、研究の主たる領域を主体的・対話的な学習に絞って研究を進めるとともに、課題解決型の授業を柱にして、研究仮説から研究内容をより具体的にして研究を深めたいと考える。

また、市町村部会研究とのかかわりをおさえ、できるだけ同一課題を持って取り組むことも継続する。さらに、小学校部会との連携を図りながら進めていきたい。

体力向上の取組については、現状をふまえた課題に対するその実践方法や効果について交流を深めていきたい。

具体的研究内容

- ◎主体的・対話的な深い学びが達成できる課題解決学習の工夫
（主体的な学びを引き出すグループ活動の工夫と言語活動の充実）
- ◎教育機器を活用した指導方法の工夫
（効果的な練習方法の開発と指導計画と評価計画の一体化）
- ◎体力向上に向けた実践の交流と検証

IV. 研究方法

1. 研究を進める上で

- ①市町村部会においては、管内の研究内容を検討し、できるだけ同一内容で研究を推進し、学校ごとに実践を進める。
- ②市町村部会の研究計画を作成し、さらに推進委員会において取り組む内容の共通理解を深めながら、研究の視点を明確なものにする。
- ③小学校部会との連携を図り、指導内容の連携や実技研修などを積極的に取り入れていく。

2. 実践の充実を図るために

- ①各市町村の活動状況の紹介・交流と管内研究の共通理解のために、部会情報「GOAL」を発行する。
- ②研究推進の強化を図るために、研究中心市町村部会と中心校を定め、第二次研究協議会において授業公開と研究仮説・内容に基づいた研究協議を行う。
- ③各校の実践記録を「保健体育科資料集 第41集」として編集する。

V. 研究組織

- 1. 石教研専門部会に所属する。
- 2. 役員は、部長1名、副部長1名、事務局長1名、事務局次長1名、研究員1名、教育課程研究委員3名とする。
- 3. 市町村部会では、研究推進委員1名を選出する。
- 4. 市町村部会は、千歳、恵庭、北広島、江別、当別・新篠津、石狩とする。

VI. 年間計画

月	各種研修会・その他	内 容
4	○専門部会第一次研究協議会 ○市町村第一次研究協議会	○役員決定 ○部会構成 ○石教研研究計画検討 ○市町村研究計画決定
5	○部会情報発行 ○教育課程研究委員研修会	○市町村研究計画の紹介 ○市町村研究計画の交流 ○研究計画の具体化
6	○推進委員会研修会	
7	○部会役員研修会 ○部会情報発行	○第二次研究協議会に向けて ○市町村研究状況の交流
9	○市町村第二次研究協議会 ○推進委員研修会	○市町村研究の中間のまとめ ○第二次研究協議会に向けて ○各校研究実践のまとめ(レポート帳合など)
10	○第二次研究協議会事前研修会 ○専門部会第二次研究協議会開催	○部会討議の進め方 ○授業研究と実践交流
11	○部会役員研修会 ○実技・理論研修会	○第25次研究(1年目)のまとめ作成・検討 ○次年度研究計画の方向性検討
1	○部会役員研修会	○第25次研究計画(2年目)の立案・検討
2	○市町村第三次研究協議会	○第25次研究計画(2年目)の検討・修正・決定・提出

(文責 浜崎 隆行)